

家庭（家庭総合）

履修単位	2 単位	学年	3 年	学科・コース	商業科	区分	(必修)・選択
------	------	----	-----	--------	-----	----	---------

1 学習内容と学習目標

家庭生活の課題を主体的に解決し、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てるために次のような学習をする。

(1)「高齢社会を生きる」では、高齢者の心身の特徴と生活、福祉について理解し、シニア体験を通して、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域、社会の果たす役割について学ぶ。

(2)「共生社会」では、家庭、地域、社会でともに支え合うことを知り、共生社会の一員としての自分らしい生き方について考える。

(3)「食生活をつくる」では、栄養、食品、調理及び食品衛生などについて科学的に理解し、基礎的・基本的な知識・技術を身につける。

(4)「住生活をつくる」では、住生活の文化に関心を持ち、住居の機能、住空間の計画、住環境などについて科学的に理解し、基礎的・基本的な知識・技術を学ぶ。

2 教材等

教科書：家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍）

3 年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい	備考 (特記事項や他の科目等との関連等)	考查範囲
一 学 期	オリエンテーション	○ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義およびその進め方について理解する。 ○各自で解決すべきテーマを設定し、解決に向け具体的な計画を立て実践する。		期 末 考 査
	第6章 食生活をつくる 1 食生活について考える 2 食事と栄養・食品 3 食生活の安全と衛生 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎	○日常の食生活を振り返る。 ○日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 ○日本人の食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族に当てはめる。 ○食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ○青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る。 ○食生活の自立に必要な基本的な調理技術を科学的な視点から学び、日常食を作れるようになる。	・小中学校での学習内容との系統性 ・食品成分表の見方を指導し活用する。 ・食品の1日の摂取量を実物や見本などで示し、具体的に把握させる。 ・実習の計画性・安全性に配慮する	
	《課題・提出物等》 1 学習ノート、学習プリント 2 食生活に関する企画 《第1学期の評価方法》 定期考査（6割）、授業・実習態度（2割）、提出物とその内容（2割） ※加点 ・授業中の積極的な参加、発表 ・実習中の積極的な行動及び協調性 ※減点 ・忘れ物、落書き、遅刻、授業態度の悪い者			
二 学 期	6 食生活と文化 7 これからの食生活	○日本や地域の食文化を見直し、食文化を主体的に継承できるようにする。 ○食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。 ○生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。	・調理実習（和食・洋食・中華・行事食・郷土料理・菓子） ・広告から食料自給率を考える	期 末 考 査
	第3章 高齢社会を生きる 1 高齢期を理解する 2 高齢者の心身の特徴 3 高齢者を支える 4 これからの高齢社会	○高齢社会の現状と課題を理解する。 ○高齢期の心身の変化や特徴と、個人差が大きいことを理解する。 ○高齢者を支援する方法を具体的に学ぶ。 ○身近な高齢者との触れ合いの機会を探す。 ○高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。	・身近な高齢者と接触する機会をもつ。 ・高齢者に関する情報を調べさせる。 ・高齢者施設や家庭クラブ活動との連携 ・「現代社会」との関連	
	第4章 共に生き、共に支える 1 私達の生活と福祉 2 共に生きる 3 社会保障の考え方	○福祉や社会的支援の必要性を知る。 ○多様な人々のニーズ、ノーマライゼーションの理念を理解し、ユニバーサルデザインを具体的に考える。 ○社会保障制度の理念と内容を学ぶ。	・「現代社会」との連携 ・学校家庭クラブとの関連	
《課題・提出物等》 1 学習ノート、学習プリント 2 調理実習プリント 3 ホームプロジェクト（夏休み課題。2学期当初に必ず提出する）				

<p>《第2学期の評価方法》 定期考査（6割）、ホームプロジェクト（1割）、授業・実習態度（2割）、提出物とその内容（1割） ※加点 ・授業中の積極的な参加、発表 ・実習中の積極的な行動及び協調性 ※減点 ・忘れ物、落書き、遅刻、授業態度の悪い者 ・ホームプロジェクト未提出者</p>				
三 学 期	<p>第8章 住生活をつくる 1 住生活について考える 2 住生活の計画と選択 3 住生活の文化 4 これからの住生活</p>	<p>○住居の機能を考える。 ○平面図の基礎知識を得て、間取りが理解できる。 ○ライフステージに合った住居を考える。 ○住居を選ぶ際、室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を学ぶ。 ○バリアフリーの考え方を理解し、身につける。 ○気候風土に応じたさまざまな住様式が存在することを学ぶ。 ○住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し、持続可能な住生活とは何か考える。</p>	<p>・住宅広告や住宅情報誌、インターネットなどを活用する。 ・住まいに対するイメージを広げる。 ・防災意識とハザードマップの確認 ・関連するデータや視聴覚教材を用意したり、自分で集めさせる。</p>	卒 業 考 査
	<p>《課題・提出物等》 1 ワークシート 2 住居に関する課題（平面図、インテリアデザイン）</p>			
	<p>《第3学期の評価方法》 定期考査（6割）、授業・実習態度（2割）、提出物とその内容（2割） ※加点 ・授業中の積極的な参加、発表 ・実習中の積極的な行動及び協調性 ※減点 ・忘れ物、落書き、遅刻、授業態度の悪い者</p>			
<p>《年間の学習状況の評価方法》 学習状況は、後に示した4観点から評価した1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績を総合的に判断し、年間の学習成績として評価します。</p>				

4 評価の観点と評価方法

学習状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「資料活用の技能表現」及び「知識・理解」の4つの観点から評価します。具体的な評価基準は下の表を参考にしてください。

	評価の観点と趣旨	評価方法
関心・意欲・態度	<p>○家庭生活の課題に関心を持ち、その課題の改善・向上を目指して意欲的に参加しているか。 ○実習や実験等に積極的に参加しているか。</p>	<p>○授業・実習への参加状況 ○授業中の発表 ○提出物</p>
思考・判断・表現	<p>○家庭生活の課題について、自己の問題としてとらえ、改善・向上を目指し思考を深めているか。 ○家庭生活の様々な場面において適切な判断・選択ができるか。 ○自分の意見をまとめ、発表、表現できるか。</p>	<p>○提出物 ○授業中の発表</p>
資料活用の技能表現	<p>○生活上の課題の解決方法を考え、実施することができるか。 ○栄養計算や食事計画が作成できるか。 ○調理の基礎的な技術を身につけているか。 ○平面図が読み取れ、住空間の計画が検討できるか。</p>	<p>○調理の基本の習得状況 ○提出物</p>
知識・理解	<p>○家庭科に関する基礎的・基本的な知識を身につけているか。</p>	<p>○定期考査</p>

5 授業を受ける際の注意事項

<p>○家庭総合の学習を通じて、各自の家庭生活の課題を見直し、改善向上するように心がける。 ○忘れ物をしない。 ○課題等の提出期限を厳守する。</p>
